神領小学校の入学式

武庫川女子大学アメリカ分校のひな祭り

おわりに

不幸な戦争の時代を越えて、私たちの生きている時代があります。かつて日本とアメリカの間で交換された人形たちも、けっして多くが残っているわけではありませんが、きびしい時代を乗り越えて今に至っています。そして、どちらの国でも、人形の意義が見いだされるようになり、子どもたちの平和学習などに活かされている例があります。また、全国各地で「青い目の人形」や答礼人形の里帰りなども活発に行われ、新たな国際交流が進みつつあります。

一方で、地球上から戦争のなくならない現実の中、国境を越えた友情と平和を願った1920年代の人形交換のこころは、単に日本とアメリカの関係にとどまらない、大切なものといえます。その意義を改めて振り返りたいものです。

出品・協力者

阿南市富岡小学校　愛媛県歴史文化博物館　香川県立ミュージアム　神山町神領小学校　吉祥院
高知県立歴史民俗資料館　渋沢史料館　真光寺　西予市立狩江小学校　西予市立俵津小学校
答礼人形「ミス三重」の里帰りを実現させる会　徳島県立文書館　徳島市史編さん室
徳島大学埋蔵文化財調査室　徳島邦楽集団　日本郷土玩具博物館　ノースウェスト芸術文化博物館
三豊市教育委員会　室戸市立佐喜浜小学校　横浜人形の家

赤野　昇　伊井さえこ　川上　恵　草分京子　小藤敦見　志磨伸枝　滝澤秀幸　竹内伸子
永瀬タメコ　原田ヒロエ　湯浅良幸

実行委員会

大原賢二（会長／徳島県立博物館）　村澤普恵（副会長／財団法人徳島県国際交流協会）
原田一美（児童文学作家）　高岡美知子（答礼人形研究家）　大粟　仁（神山町神領小学校）
石尾和仁（四国地域史研究連絡協議会）　露口幾也（徳島県立図書館）　郡司早直（海陽町立博物館）
松下師一（松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館）
高島芳弘・長谷川賢二・田村恭子・磯本宏紀・山田量崇（事務局／徳島県立博物館）

アドバイザー　染川香澄（ハンズ・オン プランニング）

●発行年月日　2010年7月17日
●編集・発行　徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会　〒770-8070 徳島市八万町向寺山　文化の森総合公園　徳島県立博物館内
TEL088-668-3636　http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/2010kibanseibishienjigyo/
●印刷　徳島出版株式会社

平成22年度 文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業

徳島平和ミュージアムプロジェクト

海を渡った人形と戦争の時代

2010

徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会
（徳島県立博物館内）

はじめに

2010年は戦後65年の節目にあたる年です。戦争体験の記憶が急速に薄れてきていますが、いまだに地球上から戦争がなくならない現実を踏まえ、私たちはこれからも戦争の残酷さと平和の尊さを学び続けなければならないでしょう。

このプロジェクトでは、1920年代に行われた日米両国間の友情と平和のための人形の交換と、その後に続く戦争の時代について紹介する展示を中心に、各種の事業を展開します。特筆すべきなのは、文化庁やノースウェスト芸術文化博物館（アメリカ合衆国ワシントン州）のご厚意により、日本からアメリカに渡った人形「ミス徳島」を約20年ぶりに里帰りさせることができたことです。これを中心に、歴史の証人というべき資料をご覧いただき、また、展示解説やワークショップ等に参加いただくことで、平和を求めた人たちの思いや戦争の残酷さについて理解を深め、私たちの未来を拓くための糧としていただければ幸いです。

プロジェクトの実施にあたり、文化庁、ノースウェスト芸術文化博物館をはじめ、多くの皆様のご指導、ご協力を賜りましたこと、心からお礼申し上げます。

2010年7月

徳島平和ミュージアムプロジェクト実行委員会

contents

Ⅰ 人形が結んだ友情―「青い目の人形」と答礼人形

1 「青い目の人形」がやって来た……1
2 アメリカへ旅立った答礼人形……5

Ⅱ 戦争とくらし

1 昭和初期のくらし……8
2 戦場へ……9
3 戦時下のくらし……9
トピック 戦争と人形たち……11
4 1945年7月4日―徳島が焼きつくされた日……12

・この冊子は、平成22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業「徳島平和ミュージアムプロジェクト」による次の事業の図録として作成したものです。なお、巡回展については、本書第Ⅰ部の内容のみ（1～7ページ）となります。

■特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」
徳島県立博物館　2010.7.17～9.5

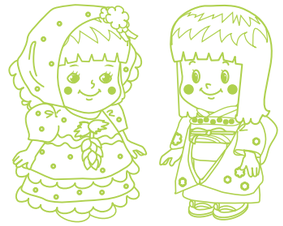
■巡回展「海を渡った人形と平和への願い」
貞光ゆうゆう館　2010.9.18～9.20
海陽町立博物館　2010.9.23～10.3
松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館 2010.10.9～10.17

・原則として敬称は省略しました。

徳島平和ミュージアムプロジェクト Ⅰ

海を渡った人形と戦争の時代

人形が結んだ友情
―「青い目の人形」と答礼人形



昭和初期の1920年代、日本とアメリカの間で行われた、
友情と平和の使者としての人形の交換について紹介します。
当時の人々が人形に託した思いに触れることができるでしょう。

01 徳島平和ミュージアムプロジェクト
海を渡った人形と戦争の時代

「青い目の人形」がやって来た

1920年代、移民問題を中心として日本とアメリカの関係が悪化していきました。その状況に胸を痛めた宣教師シドニー・ルイス・ギューリック（1860～1945）が中心となり、ひな祭りにあわせて日本へ人形を贈る計画がたてられました。全米48州から約12,000体の「青い目の人形」が集められ、友情と平和の使者として日本に送り出されていったのです。

日本で受け入れの中心となったのは、ギューリックと親交のあった実業家・社会事業家の渋沢栄一（1840～1931）でした。1927年（昭和2）、到着した人形は盛大に歓迎された後、全国の小学校や幼稚園に配られ、人気者になりました。徳島県には約150体届けられましたが、現在は、神山町神領小学校に1体残っているだけです。四国の他県では、香川県、高知県にそれぞれ1体、愛媛県に5体残っています。

シドニー・ルイス・ギューリック（1860～1945）
横浜人形の家提供
太平洋のマーシャル諸島に生まれ、アメリカで活躍したキリスト教宣教師です。伝道のため、1888年（明治21）から25年にわたり日本で過ごしました。
1913年（大正3）、アメリカに帰ったギューリックは、日本人移民排斥運動の高まりに直面し、これを悲しみました。そして、日本に滞在していたとき、五月人形やひな祭りなどの人形文化を知ったことから、人形を通じた両国の交流と相互理解を考えました。これが「青い目の人形」と答礼人形の交換につながっていったのです。
終生、日本に対する理解が深く、日本とアメリカの友好、日本人移民の擁護に努めました。

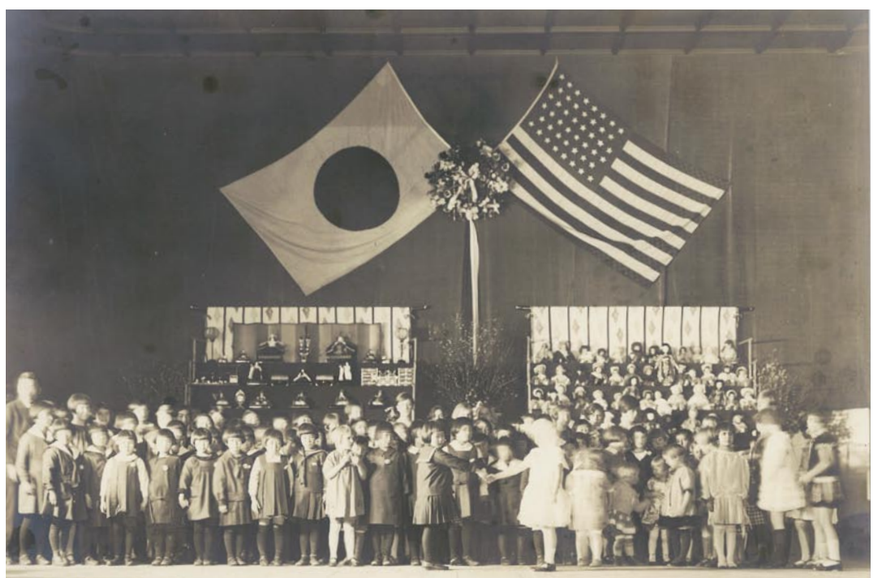
渋沢栄一（1840～1931）
渋沢史料館提供
「日本資本主義の父」といわれる実業家として著名です。一方で、財産を社会に還元し、教育や福祉など社会事業に力を尽くしました。また、民間外交にも熱心で、日本とアメリカの友好のため、ギューリックをパートナーとして活動しました。

■四国の「青い目の人形」の分布

①武田英子氏の調査資料をもとに、仙台市歴史民俗資料館、みやぎ青い目の人形を調査する会、日本郷土玩具博物館が共同調査した成果にもとづいて作成しました。
一部、答礼人形「ミス三重」の里帰りを実現させる会「82年のときを刻んで――人形大使「ミス三重」」(2009年)をもとに改変した部分があります。

②図中の数字は、$\frac{現存数}{配布数}$を示しています。

③○付き数字は文部省関係で配布された個人所蔵の人形の数を示しており、現在の所在地の現存数に含めています。



日本青年館で行われた盛大な人形歓迎式典(1927.3.3)　渋沢史料館提供

おめかしをした可愛いお人形さん
千秋閣へズラリとならぶ
松陰處女會
人形マーク
寶上金を
震災地へ
今春の競馬
九州宮崎を皮切りに
全國十一ヶ所の日程
婦人十九名
農會總代に當選
男はタッター人
ピストル
密賣團
大津團殺展

徳島毎日新聞1927.3.21

左の写真は横浜に到着した人形の紹介。右側の囲み内の記事は徳島に届いた人形の展覧会の紹介。子ども向けの記事を意識したのか、周囲の記事とは文体が異なっています。展覧会が終了した3月22日、人形交付式が行われ、学校や幼稚園などに人形が配布されました。

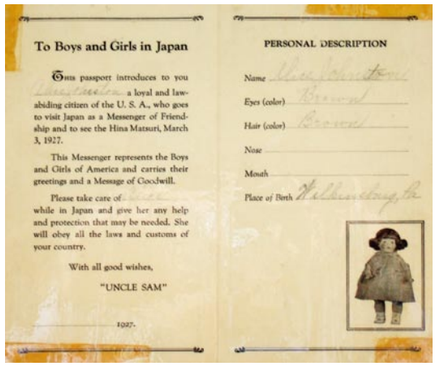
「青い目の人形」アリス

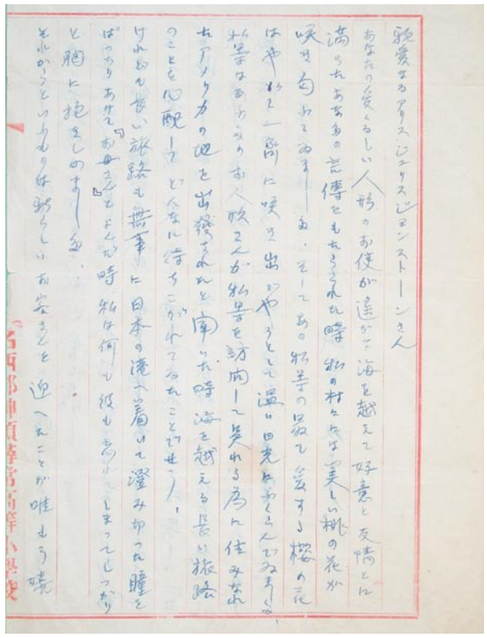
神山町神領(じんりょう)小学校所蔵(以下に掲載するアリス関係資料はすべて同じ)
徳島県で知られている唯一の「青い目の人形」です。贈り主は、ペンシルバニア州の故アリス・ジョンストンでした。神山町の人たちの熱心な取り組みにより、1991年(平成3)に里帰りしたことがあります。
アリスは今も、子どもたちに親しまれています。写真のセーラー服姿は、入学式、卒業式に「参加」するときのスタイルです。

アリスが贈られて来た当時の神領小学校

アリスの収納箱

アリスのパスポート
左:外側、右:内側





贈り主への礼状(部分)

アリスとともに届けられた服
今も多数保管されているうちの1点です。

02 徳島平和ミュージアムプロジェクト
海を渡った人形と戦争の時代

アメリカへ旅立った答礼人形

「青い目の人形」の受け入れに尽力した渋沢栄一がまとめ役となり、お礼として日本人形(答礼人形)をアメリカの各州に贈ることになりました。「青い目の人形」を受け取った学校の子どもたちによる募金をもとに、日本代表、各府県や大都市、植民地・租借地の代表として計58体が制作されました。これらの人形は、クリスマスに間に合うようアメリカへ旅立ち、大歓迎を受けました。1年間ほどアメリカ各地で巡回展示が行われた後、各州に1体ずつ配られ、博物館や美術館で保管されました。今回、1988年(昭和63)以来、実に22年ぶりに里帰りをはたした「ミス徳島」もそのうちの1体でした。なお、現存が確認されている答礼人形は44体です。

答礼人形ミス徳島
ノースウェスト芸術文化博物館所蔵・写真提供
所蔵先はアメリカ東部のワシントン州スポケーン市にあります。

1927年に贈られた答礼人形は、58体。そのうち現存しているのが44体です。
詳細については次ページを参照してください。
上の図は、日本郷土玩具博物館作成のもの
(http://www.footandtoy.jp/returnsalute.html)をもとにしました。

ワシントンD.C.(1)
アラバマ(1)
アリゾナ(1)
アーカンソー(1)
カリフォルニア(1)
コロラド(2)
コネチカット(1)
デラウェア(1)
ジョージア(1)
アイダホ(1)
インディアナ(1)
アイオワ(1)
カンザス(1)
ケンタッキー(1)
メーン(1)
メリーランド(1)
マサチューセッツ(3)
ミシガン(1)
ミズーリ(2)
モンタナ(2)
ネブラスカ(1)
ネバダ(1)
ニュージャージー(2)
ニューメキシコ(1)
ニューヨーク(1)
ノースカロライナ(1)
ノースダコタ(1)
オハイオ(3)
オレゴン(1)
ペンシルバニア(1)
サウスカロライナ(1)
サウスダコタ(1)
ワシントン(2)
ウィスコンシン(1)
ワイオミング(1)

日本青年館で行われた盛大な人形送別会(1927.11.4)　渋沢史料館提供

人形名	現存場所		収蔵先	1927年到着先	着物等より推定される元の人形名	備考
	州	市町				
ミス大日本	ワシントンD.C.	（特別区）	スミソニアン・インスティチューション	同左（首都ワシントン・米国国立博物館）	大日本（取り違えなし）	
ミス北海道	アイオワ	プットナム	プットナム歴史自然科学博物館	同左（タベンポート市公立博物館）	福岡	
ミス青森	ニューヨーク	ロチェスター	ロチェスター市立科学博物館	同左（市立博物館）	長崎	「長崎瓊子」として里帰り。
ミス秋田	ミシガン	デトロイト	子ども博物館	同左	石川	
ミス岩手	アラバマ	バーミングハム	バーミングハム公立図書館	同左	大分	
ミス山形	メーン	オーガスタ	メーン州立博物館	同左	沖縄	
ミス宮城	カンザス	ラーニッド	個人所有	カンザス州トペカ市マルヴェーン博物館	北海道	所有者はオークションで購入。
ミス福島	モンタナ	非公開	個人所有	テキサス州ヒューストン市美術館		前所有者は90年代前半にオークションで購入。現在は別の方に転売。
ミス新潟	コロラド	デンバー	デンバー・ミニチュア・人形・おもちゃ博物館	デンバー公立図書館	横浜市	1996年に、有志がより良い活用を願って公立図書館から移動。「ミス横浜市」としても「ミス新潟」としても里帰り。
ミス群馬				ニューヨーク州ニューヨーク市ブルックリン博物館		
ミス栃木				ウェストバージニア州チャールストン市州立歴史博物館	茨城	
ミス茨城	ウィスコンシン	ミルウォーキー	ミルウォーキー公立博物館	同左	栃木	
ミス埼玉	サウスカロライナ	チャールストン	チャールストン博物館	同左	台湾	
ミス東京府				バージニア州リッチモンド市リッチモンド公立図書館児童室		
ミス千葉				カリフォルニア州リバーサイド市ミッション・イン		
ミス神奈川				オレゴン州ユージン市ウォーナー東洋博物館		
ミス山梨	ワイオミング	シャイアン	ワイオミング州立博物館	同左	山梨（取り違えなし）	
ミス富山	ケンタッキー	ルイビル	スピード博物館	同左（スピード記念博物館）	富山（取り違えなし）	
ミス石川	モンタナ	ヘレナ	モンタナ歴史協会	同左（州立博物館）	秋田	
ミス福井				ユタ州ソルトレイク市州立博物館		
ミス長野				ロードアイランド州プロビデンス市ロジャーウィリアムズ公園博物館		
ミス静岡	ミズーリ	カンザスシティ	カンザスシティ博物館	同左（カンザス市公立図書館）		東京製の人形に、京都製で神戸市の市章つきの着物を着せてある。
ミス岐阜	オハイオ	クリーブランド	クリーブランド美術館	同左（市公立図書館）		
ミス愛知				テネシー州ナシュビル市美術館		
ミス三重	ネブラスカ	リンカーン	ネブラスカ大学州立博物館人類学部	同左（州立博物館）		
ミス滋賀				フロリダ州マイアミ市フレグラー図書館		
ミス京都府	マサチューセッツ	ボストン	ボストン子ども博物館	同左	京都府（取り違えなし）	
ミス奈良	アイダホ	ボイジー	アイダホ州立歴史博物館	同左（州立博物館）	神奈川	
ミス大阪府	オハイオ	コロンバス	オハイオ歴史協会	資料ではニュージャージー州ニューヨーク博物館	大阪市	1927年に「ミス大阪府」と「ミス大阪市」を誤配。
ミス和歌山	ネバダ	リノ	ネバダ歴史協会	同左（州立博物館）	奈良	
ミス兵庫	ミズーリ	セントジョゼフ	セントジョゼフ博物館	同左（児童博物館）	三重	
ミス鳥取	サウスダコタ	ピア	サウスダコタ州歴史協会文化遺産センター	同左（州立博物館）	宮城	
ミス岡山	ノースダコタ	ファルゴ	ノースダコタ州立大学人間発達・教育学部服飾学科	同左（メーソン図書館）	岡山（取り違えなし）	
ミス島根	インディアナ	インディアナポリス	インディアナポリス子ども博物館	同左	和歌山	
ミス広島	メリーランド	ボルティモア	ボルティモア美術館	同左	山口	
ミス山口	ニューメキシコ	サンタフェ	インターナショナル・フォーク・アート博物館	イリノイ州シカゴ美術館児童部	佐賀	1951年にシカゴから移動。
ミス香川	ノースカロライナ	ローレイ	ノースカロライナ自然科学博物館	同左（ノースカロライナ州立自然科学博物館）	香川（取り違えなし）	
ミス徳島	ワシントン	スポケーン	ノースウエスト芸術文化博物館	同左（旧名：チニーコールズ博物館）	岐阜	
ミス愛媛	ミシシッピー	ガルフポート		ミシシッピ州ガルフポート公立図書館		1969年のハリケーン「カミーユ」で喪失。ポックリ1足のみ残る
ミス高知	ペンシルバニア	ピッツバーグ	カーネギー自然歴史博物館	同左	埼玉	
ミス福岡	オレゴン	ユージーン	オレゴン大学美術館	1929年のリストに記載されていない	群馬	
ミス佐賀				ペンシルベニア州フィラデルフィア市商品陳列館	東京府（所蔵品写真より）	閉館後、所蔵品は倉庫で保管。人形は未確認。所蔵品の人形写真が現存。
ミス大分	マサチューセッツ	スプリングフィールド	科学博物館	同左（スプリングフィールド市博物館及びウースター市美術館）	岩手	しばらくは共同所有
ミス長崎				1929年のリストに記載されていない		
ミス熊本				ルイジアナ州ニューオーレアン市州立博物館		
ミス宮崎				ミネソタ州ミネアポリス市美術館		
ミス鹿児島	アリゾナ	フェニックス	フェニックス歴史博物館	同左（アリゾナ博物館）	鹿児島（取り違えなし）	
ミス沖縄	オハイオ	シンシナティ	シンシナティ美術館	同左	樺太	
ミス東京市				ニューヨーク市博物館		
ミス横浜市				カリフォルニア州サンフランシスコ市公立図書館		
ミス名古屋市	ジョージア	アトランタ	アトランタ歴史センター	アトランタ市高等美術館（現在ハイ美術館）	名古屋市（取り違えなし）	1999年にハイ美術館から移す。
ミス京都市	アーカンソー	リトルロック	アーカンソー・発見の博物館	同左（アーカンソー博物館）	京都市（取り違えなし）	
ミス大阪市	ニュージャージー	ニュワーク	ニュワーク博物館	資料ではオハイオ州コロンバス市州立博物館	大阪府	1927年に「ミス大阪府」と「ミス大阪市」を誤配。
ミス神戸市				コネチカット州スタンフォード市ラーネッド氏私有公開博物館		ラーネッド氏は私有の仏教寺院に飾る人形を熱心に所望。瀕死のあった「ミス神戸」をもらい修繕。その時すでに、着物は別の人形の色褪せた着物と交換されていた。博物館は1981年に登録抹消で売却。
ミス樺太	デラウェア	ウィルミントン	デラウェア歴史センター	同左（デラウェア市博物館）	長野	「長野絹子」として里帰り。
ミス台湾	カリフォルニア	ロサンゼルス	ロサンゼルス郡自然歴史博物館	同左（市立博物館）		
ミス朝鮮	コネチカット	ウェストハートフォード	コネティカット科学センター	同左（ハートフォード市児童博物館）	朝鮮（取り違えなし）	
ミス関東州	ワシントン	ベルビュー	ロザリー・ワイエル人形アート博物館	ニューハンプシャー州マンチェスタ市美術館及びバーモント州フェアバンクス博物館の共有		前所有者はオークションで購入。現所有者は前所有者より購入して公開。
不明1	コロラド	デンバー郊外	個人所有	不明	島根	所有者は1980年代に人形ディーラーより購入。
不明2	ニュージャージー	ストラットフォード	個人所有	不明	関東州	所有者は1998年にアンティーク店で購入。
不明3	マサチューセッツ	アソーネット	個人所有	不明	青森	所有者は1960年代に骨董店で購入。

（高岡美知子氏の研究をもとに、答礼人形「ミス三重」の里帰りを実現させる会が作成したものを一部改変。）

本縣兒童の愛情のこもつた
手紙數通を添へて
アメリカへ贈るお人形

徳島毎日新聞1927.9.24

お人形の送別式

秋雨そぼ降る
千秋閣でお人形
送別の集り

尋六兒童送動會

清酒狀況

田熊氏出發

秋嶺共同販賣

徳島毎日新聞1927.10.9

6ページに掲載したミス徳島の写真と見比べてみると、着物の柄が異なることが分かります。どうやら徳島から送り出された人形と、現在のミス徳島は別物らしいのです。アメリカでの巡回展の過程で、人形と台座の組み合わせが変わってしまったようです。現在のミス徳島は、もとは岐阜県から贈られた人形だったとみられていますが、博物館に納められてからずっと「ミス徳島」として保管されてきたものです。

サンフランシスコに到着した答礼人形

横浜人形の家提供
1927年（昭和2）、日本人学校である金門学園のホールで歓迎式が行われました。

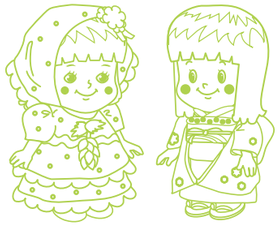
アメリカの雑誌 EVERYLAND（1928.2）

高岡美知子所蔵
人形を介した日本・アメリカ両国の子どもの交流が表現されています。

徳島平和ミュージアムプロジェクト Ⅱ

海を渡った人形と戦争の時代

戦争とくらし



友情と平和のための人形交換から
ほどなく迎えた戦争の時代について紹介します。
人々の生活とのかかわりを中心に、戦争の苛酷さに触れることができるでしょう。

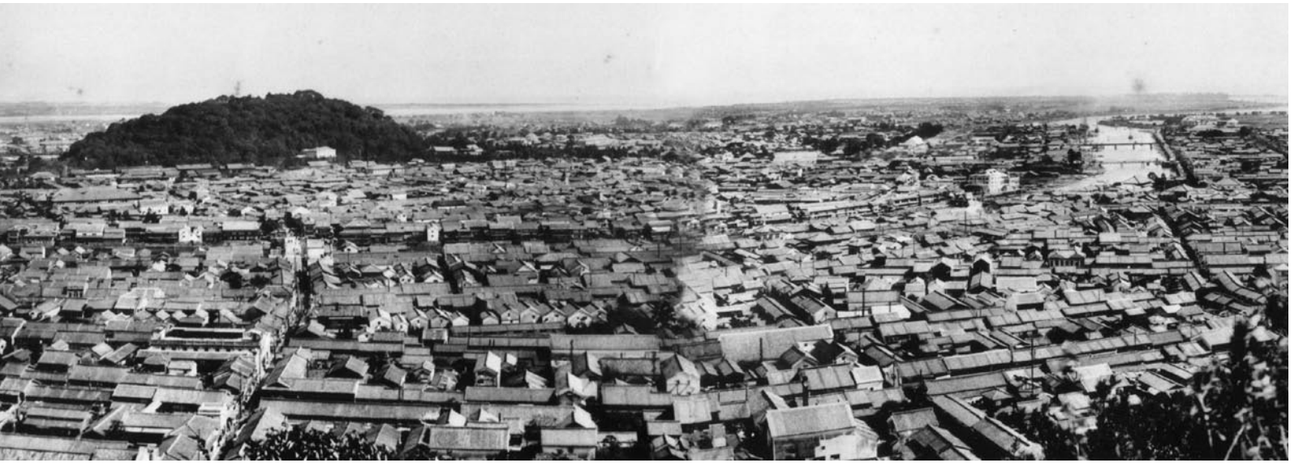
01 徳島平和ミュージアムプロジェクト 海を渡った人形と戦争の時代

昭和初期のくらし

日本とアメリカとの間で人形の交換が行われた昭和初期は、きびしい時期でした。第1次世界大戦（1914～1918）の終結後からの慢性的な不況が続く中、1927年（昭和2）には金融恐慌が起きました。1930年（昭和5）には、前年にアメリカに始まった世界恐慌が日本に波及し、産業や経済は深刻な状況になっていきました。

こうした時期でしたから、人形の交換は明るい話題として受け止められたことでしょう。またこの頃、映画や演劇などが人々の楽しみとなっており、ラジオ放送やレコードなども普及していきました。

昭和初期の家庭
徳島市史編さん室提供
蓄音機を囲んだ家族。絵本やおもちゃが見られます。



眉山から撮影された1920年代初めの徳島市街（『東宮殿下行啓記念写真集』より）

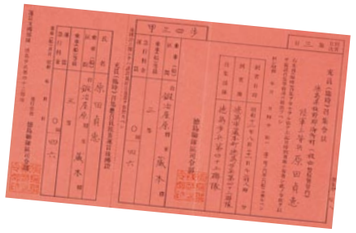
02 徳島平和ミュージアムプロジェクト 海を渡った人形と戦争の時代

戦場へ

1930年代から足かけ15年に及ぶ長い戦争の時代を迎えます。1931年（昭和6）、日本は、満州事変により中国との戦争を始め、やがて日中戦争として中国全土へ戦いを広げていきました。また、人形の交換にこめられた平和への願いはかなわず、1941年（昭和16）には、アメリカなどとも戦うことになり、アジア・太平洋にまたがる広大な地域を戦場としました。一連の戦争はようやく1945年（昭和20）、日本がアメリカなど連合国に降伏することによって終わりました。

この間、徳島に設置された陸軍歩兵第43連隊や第143連隊をはじめ、多くの兵士が戦場へ送られ、失われた命もはかりしれません。また、徳島県内には軍事施設も建設されましたが、完成しないうちに敗戦を迎えたものもありました。

召集令状（複製）
徳島県立博物館所蔵
いわゆる「赤紙」。戦争が長期化すると、多くの兵士が戦場へ送られるようになりました。



陸軍歩兵第43連隊営門
徳島市史編さん室提供
第43連隊は、1925年（大正14）、現在の徳島大学蔵本キャンパスの場所に設置されました。

03 徳島平和ミュージアムプロジェクト 海を渡った人形と戦争の時代

戦時下のくらし

戦争のもと、政府により戦意高揚が図られたり、各種団体による兵士への慰問や戦死者の遺族の援護などが行われたりしました。また、学校教育や子どもの遊びにも戦時色が濃くなりました。「青い目の人形」は敵国のものとして扱われ、多くが失われました。

一方、戦争が長引き、人々の生活は苦しさを増しました。働きざかりの若い男性の多くが戦場へ送られたため、中学生や女性が労働力を補いました。農村や工場では生産量が少なくなり、生活に必要な品物も不足しました。みそ、しょうゆ、砂糖、米、衣服などは、切符との交換でしか手に入らない配給制となりました。また、食糧不足のため、多くの家庭では、米の代わりにアワ、ヒエ、サツマイモ、カボチャなどが主食となりました。

へいたいさん双六
徳島県立博物館所蔵
1941年（昭和16）発行の小学生向け雑誌の付録です。戦時色の強まりがうかがえます。

防空頭巾

徳島県立博物館所蔵
空襲があった場合に、落下物等から頭部を保護するために使用された頭巾です。

衣料切符

徳島県立博物館所蔵
配給制のもとで、衣料の分配のために用いられた切符です。

灯火管制用電球及び笠

徳島県立博物館所蔵
政府は早くから空襲を受ける可能性を考えており、防空知識の周知や灯火管制（光が戸外に漏れないようにすること）を実施しました。そして、1944年（昭和19）には、実際にアメリカ軍の空襲が始まりました。

十六地蔵（左）　鎮魂の銅鐸（右）

真光寺所蔵
日本全土への空襲が激しくなると、都市部の学童を地方へ移住させる学童疎開が行われるようになりました。徳島県でも、西部や南部に大阪から多数の子どもたちを迎えました。
そうした中で、1945年（昭和20）1月、つるぎ町貞光の真光寺に疎開していた大阪市立南恩加島国民学校（現南恩加島小学校）の児童29人のうち、16人が焼死するという悲劇がありました。
十六地蔵は、犠牲者の冥福を祈って建てられたもので、1946年（昭和21）に完成しました。毎年、1月29日の命日には地域を挙げて供養が行われています。
また銅鐸は、南恩加島小学校の児童が鎮魂のために企画して制作されたものです。2003年（平成15）に完成し、同校に設置されたのと同じものが真光寺に寄贈されています。

トピック

戦争と人形たち

戦争の間、「青い目の人形」は敵国の人形として扱われ、多くが失われてしまいました。それでも、「人形に罪はない」と考えた人たちによって密かに守られたものもありました。今日知られている「青い目の人形」は、そうした歴史をくぐり抜けてきたものです。
また、アメリカに贈られた答礼人形も、市民の目に触れる所から隠されたり、忌まわしく見られたりしたようです。そして、多くが忘れられてしまいました。
そうした経緯を踏まえると、今に伝わる「青い目の人形」と答礼人形は、貴重な歴史の証人といえるでしょう。

毎日新聞1943.2.19

横浜人形の家提供
「青い目の人形」が「敵」として危険視されていたことを伝える新聞記事です。人形が処分された例は多かったようです。このような風潮があったので、人形を隠し守ることがどんなに覚悟のいる危険なことだったかということがうかがえるでしょう。

THE EVENING SUN, BALTIMORE, FRIDAY, OCTOBER 19, 1945

Jap Doll's Name Made History

[Continued From Page 40]

love have created a profound impression in a wide circle of Japanese homes. I hear from all sides expressions of joy and gratitude . . .

Other statesmen spoke and cabled. Little girls across the Pacific composed letters and poems to little girls over here.

Then Japan began to make dolls for America. There would be 58 dolls, each named after a prefecture of city in Japan, and they would be "Ambassadors of Good Will." Each state would receive a doll, and there would be a Miss Japan for Washington, and a few for top dignitaries.

Children Contributed

To lure the most gifted artists, dress the dolls lavishly, and supply each doll with a complete tea set and other accoutrement, 2,610,000 Japanese children each contributed one sen (one-half cent).

Each with its own steamship ticket, market "half-fare" — and passport bearing its name, the ambassadors arrived in America late in 1927, and were exhibited in many cities.

In the nation's capital they were welcomed at a special ceremony in the National theater, by Japanese Ambassador and Madame Matsudaira, Mrs. Herbert Hoover, Mrs. Woodrow Wilson, Mrs. William Howard Taft, Mrs. James J. Davis, and many others.

Toured For Several Years

The tour lasted several years, and in Maryland included Baltimore, Cumberland and Manchester. Then Miss Japan went into the National Gallery in Washington; Miss Tokyo, Miss Osaka and all their pretty sisters went to the various recipients, and Maryland's doll went into the glass case in the children's room at the Pratt Library.

That was in 1933, and few suspected then that the doll's face might look differently to visitors later.

Her black bobbed hair, smooth face with a kind of Mona Lisa smile, lips like pale cherries, and her black hair remained the same but after December 7, 1941, they somehow failed to delight adult guests as much. Even the silk of her kimono lost its sheen to people who knew it was produced by labor that was now busy making parachutes.

Demands For Removal

Librarians say that children still looked hungrily at the 33-inch doll in the glass case, but some adults found her an out of place that they demanded her removal. She could no longer, to them, be an ambassador of good will.

Then an atomic bomb fell, and visitors again changed their attitude toward the forever-smiling doll. Children wouldn't understand this, of course, because many of them are too little to read the two items that lie beside her in the glass case.

One is a letter from "All the People of the Land of Cherry Blossoms to All Young Friends in the United States."

It reads: "You are kindly requested to accept the pretty bearer of this passport of good will as a messenger sent by your young friends in Japan, to convey to you their sentiment of warm regard and friendship. Please be good to her, and she will stay with you all her life, always a pleasant companion and a true friend."

The other is her passport. It is made out to Miss Hiroshima.

アメリカの新聞　THE EVENING SUN BALTIMORE 1945.10.19

高岡美知子提供
戦後ほどなく、ミス広島について書かれた記事。1941年（昭和16）の太平洋戦争の開戦以後、人形の輝きが失われたかのように見えたといい、不快感を示されたり、撤去を求められたりしたことがあったことが知られます。相手国に対する感情が人形に投影されていたのです。

Just A Little Japanese Doll—But Her Name Made History

Cherry blossoms have bloomed and blown many times since the doll in the purple kimono came to live in Baltimore, in the children's room of the Pratt Library, as an ambassador of good will from Japan.

For twelve years she has stood there in a glass case that protects her from the hands of children, but her story really begins on the Occidental side of the water.

Not long after the Japanese Exclusion Act of 1924 was passed, the Federal Council of Churches started a movement in which the children of America would make and send "dolls of friendship" to the children of Japan.

Peace In Hearts

"We who desire peace must write it in the hearts of children," they said.

The movement caught on. The Y. W. C. A., Camp Fire Girls, W.C.T.U., Girl Scouts, Sunday schools, churches, Girl Reserves, and day schools rallied their resources to the cause of friendship dolls. Every state and most of the cities worked feverishly.

Under the Maryland chairmanship of Mrs. L. B. Mather, 215 East Twenty-second street, Baltimore, this State finally had 170 dolls dressed to represent every phase of American life ready for the children of Nippon.

Finally, 12,739 dolls of friendship sailed from America for Japan. It was the biggest gesture, by and for children, in history. And it got a tremendous reception in Japan.

Thanks From Shidehara

Baron Kijuro Shidehara, now the Premier of Japan, and then Minister of Foreign Affairs, cabled back: "These little messengers of

[Continued On Page 34, Column 4]

1945年7月4日
―徳島が焼きつくされた日

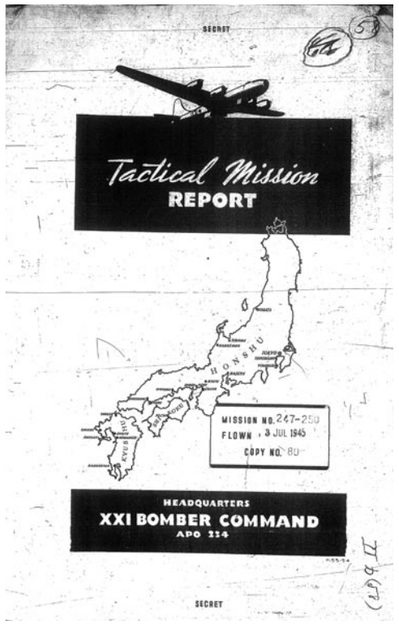
戦況がきびしくなる中、1944年（昭和19）の末頃から日本本土は、アメリカ軍の空襲を受けるようになりました。1945年（昭和20）には、東京や名古屋、大阪などの大都市や地方都市への大規模な爆撃が行われ、多くの被害がありました。

同年7月4日未明には、アメリカ軍のB29爆撃機約130機による徳島市街地の空襲がありました。街は大量の焼夷弾で焼かれ、約60%が焼け野原になってしまいました。被害者の数は正確には分かりませんが、死者約1,000人、負傷者約2,000人、被災者約70,000人とみられています。そして、徳島市の人口は空襲前の約60%程度になったといわれています。

アメリカ軍が撮影した徳島市街（1945.3.24）
徳島県立文書館提供

アメリカ軍が撮影した徳島市街（1945.7.5）
徳島県立文書館提供

Tactical Mission Report
（作戦任務報告書）
原本　アメリカ国立公文書館所蔵
アメリカ軍の報告書。徳島大空襲の実態が詳細に記録されている重要な資料です。



眉山から撮影された空襲後の徳島市街（『写真集・徳島大空襲』より）

空襲の被災遺物
徳島県立博物館所蔵
徳島市街の工事現場で出土したものです。空襲による火災の高熱により、ガラスや焼物の釉薬（うわぐすり）が溶け、変形したり、固着したりしています。